

(会議の経過) 第3回 波賀中学校区 学校規模適正化に係る地域の委員会

発言者	議題・発言内容
会長	※次第「3. ①第2回委員会会議録について」内容及び市HP公開について委員了承。今回の会議録より委員・会長確認後、早期のHP公開についても了承。
事務局	※次第「3. ②学校規模適正化に関する市の基本的な考え方等について」説明。 《波賀小学校区》
委員	9/25のPTA臨時総会で、学校規模適正化、幼保一元化、給食機能集積あわせて意見を出してもらった。給食機能集積について検証委員会や行政懇談会で意見のあった集積の賛否を協議する場がなかったことは残念との意見があった。地域の委員会で出たことは実現する方向にしてほしい。あわせて当会に決定を投げず、行政として責任をもって対応してほしい。また、PTA会員で給食の一宮センターからの配送を最近まで知らなかった人もおり、広報やしーたん放送だけでなく、PTAに直接説明する場を持ってほしい。現状では9月末で波賀センターが廃止になると思うが無念な思いがあり、そのような思いを適正化ですることがないようにしたい。しかし、道谷、野原の皆さんの意思を尊重するという事は、これまでと変わらない。
事務局	地域の皆さんへの周知については、委員意見の中にもある。ふれあいミーティング等の制度もあり、地域やPTA等へ出向くことはいつでも対応する。そのように地域の皆さんにも周知していきたい。
委員	9/25 波賀小PTA総会で10/2を目途にアンケートを実施するとのことであった。市には答弁の整理について依頼する。
事務局	委員意見の中で理解しにくいとの意見があったことから、地区別協議会、地域の委員会の役割について改めて説明する。
委員	当委員会要領で今後の方向性を検討となっており、協議会規則では個別課題の協議となっている。1つの学校になろうという決定はどこですか。
事務局	方向性つまり適正化するかしないかの判断を当委員会ですてほしい。
委員	当会が責任を持ってということか。
事務局	前段の地域の意向をどう吸い上げるかも含めて当会で検討いただきたい。
委員	当会で方向性を決めるということだが、当会と協議会での議論の共有ができるのか。また、地域の心情を理解し、住民や各校の要望が活かされ協議会につながるのか心配である。野原・道谷校区の方々の意見を十分に聞いてもらって協議会につなげてほしい。
事務局	委員会と協議会の明確な線引きは難しいと思うが、波賀・野原・道谷の地域の思い、行政の思いをすり合わせていくのが当会と思っている。実施の時期と場所を当会で十分に協議のうえ決定いただき協議会に移行したい。また、当会委員の中から協議会委員に入られる方もあると思うので、当会の協議や委員の意見は斟酌していただきたい。
委員	委員会で方向性を決定し、協議会が責任を持って進めるということであるが、当会が決定したから協議会で進めてくださいということができるのか。
委員	小学校区の懇談会の時も3校区それぞれで決定し協議会に移行するものであった。当会で決定したことが協議会で覆ることはない。
委員	色々な疑問がクリアされて賛成、反対が決められる。
委員	当会で実施の時期、場所を決めるということで大変重い。

委員	波賀小校区では給食の集積問題から不安を感じておられるが、しかし進めなければ学校がどうなるか、何年間も重荷を背負って心配しなければならない。道谷小PTAも不安と責任、恐怖もあるが、しかし、何かの方向は導いていかないといけないと思う。道谷、野原でもPTA、地域の思いの格差もあるだろう。
会長	委員会の役割についての認識は委員了承でいいか。⇒委員了承
委員	道谷からの小学生の通学はスクールバスが基本となっているが、例えば中学生と一緒に、どのような形を考えているのか。小学校低学年は乗り物酔いやトイレ休憩なども必要になるだろう。小学校は別で運行してくれるのか。個人的には学校跡地の活用も気になる。
事務局	スクールバスについて、小中学生では学校生活の時間が違うので、基本的には別になると思う。具体には道谷からどこでバスを停車するかなども決めていかないといけない話になる。
事務局	学校跡地活用については、地域の方々と相談しながらどういう風に進めればいいのかなど協議し進めていきたい。
委員	道谷は地域の児童は5人である。児童5人では学校として成り立たないので留學生が必要だが、市として実施時期はどう思っているのか。
事務局	野原地域の思いもあるので、実施時期の明言は避ける。山村留学制度は大変良い制度で永く継続いただいております、市としては継続してほしいが、課題もあり地域と相談したい。25年度の留學生の募集については山村留学里親制度実施対策委員会に確認する。
会長	※次第「3. ③各小学校区の考え方」について各校区から報告いただきたい。
委員	<p>《道谷小学校区》</p> <p>道谷小保護者が集まって話したことは主には次の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒数の多い少ないで学校教育に差が生じるのか。 ② 小学生（特に低学年）が30分以上の通学に耐えられるか。地形的な距離や急カーブの問題もあり、市街地の平坦な場所とでは比較にならない。 ③ 11/3に山村留学30周年記念式典を予定している。現在あずかっている4人の留學生の家庭や友人で留学希望者もあり、適正化の時期についても2～3年前には伝えないといけないと思う。 ④ 道谷は小学校があつての地区であり、都市との交流や老人会と子どもの交流、だんだか踊りなどの伝統の継承などは、まちづくり協議会で進めているまちづくりの典型的なものだと思う。道谷単位自治会の学校となっており、学校と共に歩んできた地域である。 <p>今後、どういう順序でやっていくのか、PTA・自治会でも考えていかないといけないが、他の校区の大きな方向性がわかると話の土台にもなるので教えてほしい。</p>
事務局	スクールバスは長距離運行となり不安が大きいと思うが、例えば低学年へのケアとして慣れるまでの間、教諭の引率やポイントポイントでの休憩などの配慮をしながらやっていきたい。
事務局	生徒数の多い少ないで学校教育に差が生じるのかの質問がありました。新しい学習指導要領ではコミュニケーション能力を高めることが求められている。例えば、小学校で辞書を使って調べて報告する単位では、同級生間で意見を述べ、また意見を聞くなどすることで、課題をみつけて対応する能力や人とのコミュ

	<p>ニケーション能力を高めることなどを学習する。小規模校でも少人数なりの工夫をし、複数学年で学習を工夫したりしているが、クラスに 20～30 人いれば1クラスで複数の班ができ、共同学習すること、またクラス内で班構成を変えられることなど、人間関係をつくる経験もでき、コミュニケーション能力を高めるのによく、環境的には違うと思う。</p> <p>《野原小学校区》</p>
委員	<p>8/29 に野原小 P T A 臨時総会を開いた。小学生保護者、就学前児童保護者、自治会等関係含めほぼ 9 割の家庭が適正化には賛成であった。適正化の実施時期や場所など具体的にはなっていない。その上で、どういうことが気になるかのアンケートを実施することとなった。結果集約について P T A で行うため時間を要するが、今年度末には当会の結論を出さないといけないと思う。しかし、具体的にわからないと合意してもいいかどうかの意見集約もできないので、場所、時期など項目を決めて協議したらどうか。また N J A のこと、スクールバスは具体的な地区名を聞かないと話もできない。</p> <p>また、議会の承認や校舎の改修などから逆算して協議会での決定が必要な時期と当会での協議期間も決まってくるだろう。当会から協議会に出る委員について、P T A は役員交替にあわせて変わるので、振り出しに戻るかもしれないが、現時点では野原は適正化に向ってという方向である。</p>
事務局	<p>遠距離通学対策になる地区については協議会での協議となるが、野尻以北、谷、日見谷が 4km を超える地域と考えている。</p> <p>議会の承認、大規模改修については意見のとおりであるが、まず、当会で適正化しようという決断をしていただき、その後、協議会での協議等に概ね 1 年程度は必要と思うが、開催頻度にもよるし、並行して進めることもできる。議会提出は協議会での協議項目が決定後であり、大規模改修も含めて、相談しながら進めていきたい。また協議会委員に当会委員が全員なってもらうものではなく、各地域の代表として当会の委員が入っていただく場合もあるものである。</p>
委員	<p>N J A の交流について、新しい学校でできるか。また山村留学も道谷だから意味があるのではと思われ、新しい学校でいいのかということも感じる。しかし、児童数はじり貧状態になるので、適正化は仕方ない状態だと思う。</p>
事務局	<p>教育委員会としては、N J A 活動、山村留学について、実施方法等は別として、新しい地域の中で継続してほしいという思いはある。地域の思いで新しい学校につなぐということであれば、個別に相談していきたい。</p>
委員	<p>まずは P T A の意見が一番大事であり、野原校区の自治会としてはそれを尊重したいとする意見があった。</p>
委員	<p>野原校区について 1 割は反対の人がいるということはわかってほしい。また、この場より、学校間で話す方がいいのではないか。波賀小 P T A の思いが、野原小・道谷小 P T A とは違うということ、そういう状態であるのかと思った。</p>
委員	<p>波賀小 P T A として、道谷、野原の思いにブレーキがかからないように、波賀小で時間をかけて道谷小が立ち行かなくなるようなことがないようにしたい。道谷、野原は重大な決断をされており、その思いを波賀小も受け止めたい。また、臨時総会の出席率が 40% と低く、P T A だけの呼びかけではなく市からもあらためて説明する機会をつくってほしい。</p>
事務局	<p>他校区のこともあるので、市全体として周知方法について検討したい。</p>

事務局	より具体的に聞きたいことを教えてもらい、市もそれにこたえることが責務と思っている。また、あまり時間をかけずに当会で時期や場所の決定をという意見もあったが、地域の意見をまとめてもらい、市とのやりとりをする仕組みも考えていかないといけないと思う。
委員	中学校P T Aとして子どもの人数が少ないことはどうかと思っている。波賀中も25年度から100人を切り、1学年1クラスになってしまう状態である。子どもの成長材料としても、子どもたちが少ない中での学校生活はどうかと思うし、生徒数が少ないということは保護者の負担も大きい。道谷・野原の思いは尊重したいし、子どものためにも重く考えないといけない時期だと感じる。
委員	自治会長会でも地域の委員会の資料や会議録等の確認をしている。未就学児童への保護者の周知方法とあわせて、本日の委員会の内容についても10月中旬の自治会長会でも周知しておく。
事務局	10/30に波賀中校区の行政懇談会を開催予定であり、その場も含めて周知することは大事であり、自治会長と相談したい。
委員	道谷地区では少人数で学校がなくなり、なくなると山村留学生も迎えられなくなる。それ以前に市内の南部に若者が出て地域の過疎化が進むことも踏まえて考えないといけない。道谷の思いもこれから変わることもあるかもしれないが、地域住民として、これからも当地で暮らすことを踏まえ真剣に考えてほしい。
事務局	学校の跡地活用もあるが、現在でも南部に出る方もおられる。地域振興についても考えていきたい。
会長	※次第「4. その他 次回開催日について」波賀小、野原小P T Aのアンケートの集約は間に合うか。
委員	アンケートの結果に関係なく実施してほしい。
委員	波賀小アンケートは要望的なものになると思う。方向性を決定することは、これより後になると思う。
委員	アンケートの集約ができれば先に教育委員会に送ることも考えている。
事務局	本日、各校区の思い・意見が出た。まず適正化を進めるのか、進めないのかの議論をお願いしたい。それが、当会での議論期間を決定することにもなると思うので、次回にその議論をいただきたい。
会長 (閉会)	今回は10月31日(水)開催とする。事務局には資料の事前配布を依頼する。